



## Profile

1992年長岡技術科学大学大学院修了、ユニオンツール入社。2017年技術本部工具技術部長、20年執行役員技術本部長、21年取締役。25年3月社長就任。新潟県出身、1968年生まれの57歳。

## 生産技術が最重要

ユニオンツール 渡辺 裕一 へわたなべゆうじゅさん

### ずっと技術畑

「メーカーにとり最も重要なのは生産技術力。設備を含めた生産技術力で競合他社と差別化するために、内製のメリットは大き

い。不具合があればすぐに自分たちでメンテナンスでき、ダウンタイムを最小化できる。この安心感がすごい」。3月に就任した渡辺裕一社長はそう熱く語る。

ユニオンツールはプリント基板

(PCB)用工具で世界トップクラスのシェアを誇る。事業はPCB工具が7割、エンドミルが2割のイメージで、内製設備が多い工具業界でも特に比率が高く、100%に近い内製率も特徴だ。

渡辺社長は大学院で材料分野を専攻した後、地元の新潟県長岡市での就職を望み長岡に主力工場があるユニオンツールに入社した。もう一つ大きな動機が、内製設備の比率の高さだったという。そして入社以来ずっと技術畑を歩んだ。ケミカルエッチングで工具にマーキングする部署に始まり、直動機器部門などを経験。1999年から2年間は米国人のPCB工具の工場で生産技術者として生産ラインのメンテナンスや改善対応などを担った。

帰国後は、内製設備の設計部署に在籍し、その後期にはコーティングの研究開発に関わり、2008年には今も主力のロングセラー、ダイヤモンドライク・カーボン(DLC)コーティング「ULF(ウルフコート)」を開発した。その後、コーティング炉も内製化し、超硬直(じか)彫り向け切削工具

「UDCシリーズ」の開発につながった。

### 社長の重要な仕事

「わが社は作るのには上手だが、売るのが下手。どこかで『良い物を作れば売れる』との意識が強い。だからこそ企画が大切で、新製品にはアピールできる『売り』がなければならぬ、コモディティ化が進む工具では特に」。課題を聞くとそう答えた。ただ、どんな会社になりたいかを聞くと、「わが社の中心にある内製設備、つまり生産技術の最重要視は変えない。そして『良い物を作れば売れる』との思いも大事にする」。実にメーカー社長らしい言葉だ。

PCB工具のシェア維持やエンドミルのシェア向上がまずは大きなミッションだ。それらに続く転造ダイスの売り上げも伸ばしたいところ。さらには生体センサーや路面センサーなど、新分野にも力を入れている。「新分野開拓は、社内技術があり、人がいることでできる。それは大きな強み。人と技術をどう生かすかが、社長の重要な仕事」と意気込む。(芳賀崇)